

令和4年度 学校評価表		島根県立平田高等学校	
本校の使命			
校訓	自律・協同・創造		
教育方針	主体的な姿勢と協調の精神をもって、常に新しい時代を切り開く人格の形成に努めさせる。		
教育目標	1. 自らの責任において自己の目標をたて、その目標に向かって自己を厳しく律することができる力を育てる。		
	2. 集団の中における自己の立場を自覚し、協調・協力することのできる態度を育てる。		
	3. 健康に留意し心身の鍛錬に努めると共に、自己実現の意欲を喚起し、よりよい社会の実現を目指して創意工夫する態度を育てる。		



目指す 学校像	◎地域から信頼される、魅力と活力のある学校づくりの推進
	1 一人一人の生徒を大切にする支援体制の充実
	2 生徒の主体性を育む教育活動の推進
	3 生徒の学びの質を高めるための授業改善の推進
目指す 生徒像	4 地域との協働による学校魅力化の推進
	1 自他の人権を尊重し、差別をなくす実践力のある生徒。
	2 自己管理ができ、諸活動に対して主体的に取り組む生徒。
	3 「生きる力」となる学力を身に付け、たくましく自己実現を目指す生徒。
目指す 教師像	4 社会の一員であることを自覚し、よりよい社会の実現のために貢献する生徒。
	1 豊かな人間性と使命感を持った教職員
	2 「チーム平高」の一員として協働し、互いを支え合う教職員
	3 自己研鑽に努め、指導力と実践力を高める教職員

4段階評価	4…強くそう思う・よく当てはまる	3…そう思う・ある程度当てはまる	2…あまりそう思わない・あまり当てはまらない	1…全くそう思わない・まったく当てはまらない
-------	------------------	------------------	------------------------	------------------------

※【評価】	A…良い	B…まあ良い	C…あまり良くない	D…良くない
-------	------	--------	-----------	--------

自己評価算出方法

①各学校評価実施項目ごとに教職員・生徒・保護者アンケート結果によりそれぞれ評価値平均を算出

②①で算出した平均値を重点指導目標のくりごとに再度平均

③②で算出した教職員・生徒・保護者の各平均値を平均して総平均を算出

④総平均値が3.2以上→A、3.0以上→B、2.8以上→C、2.8未満→Dとして自己評価案を記載

重点指導目標		評価番号	学校評価実施項目	目標達成のための方策	分掌	自己評価 関連アンケート番号						自己評価 概評と改善策		学校関係者評価	
						教職員	平均	生徒	平均	保護者	平均				
1	人権尊重の意識を高め、安心・安全な環境づくりを行う。	①	互いの人権を尊重し、望ましい人間関係の育成を図るために学校行事等における集団活動への支援ができていますか。	学園祭、球技大会、日頃のHR活動などの集団活動を通して望ましい人間関係の構築を図らせる。	生徒指導	⑭ 3. 3	3.3	⑧ ⑨ 3.3 3.2	3.3			3.2	A	A	・生徒指導全般において、今後多層的な指導と支援を継続したい。特に、人権意識を高める指導は計画的に継続したい。 ・学校行事では、生徒の主体性と支援のバランスを大切にしたい。 ・生徒からの意見をふまえ、委員会活動等で生徒同士が交流できる場を検討したい。 ・人権学習は計画どおり実施され、生徒の人権意識の向上もみられている。 ・支援を必要とする生徒のケース会や支援委員会を外部の専門家からのアドバイスももらいながら速やかに実施できた。 ・コロナ禍のもと、引き続き生徒の健康状態の丁寧な把握に努めたい。 ・挨拶や清掃等十分にできていない生徒もいる。継続した指導が必要である。 ・校則やルールは生徒会と一緒に検討中。
		②	人権・同和教育において重点目標の実現に努めていますか。	各クラス、学期に最低1回、人権や自他を尊重することの大切さを考えさせるLHRの時間を設ける。	図書研究	⑳ 3. 2	3.2	⑫ 3.1	3.1						
		③	支援を必要とする生徒を早期に確認し、担任・保護者・関係者との連携を密にし、他機関との連携を含めた早期対応が図られていますか。	必要に応じて迅速なケース会議を開き、個々の事情に適した対応を検討する。場合によっては外部専門機関との連携を図る。	保健	㉓ 3. 5	3.5								
		④	健康観察、欠席状況把握等を行い、生徒個々の心身両面の健康状態の適正な把握に努めていますか。	担任、学年主任、保健部が緊密な連携をとり、対応が必要な生徒の情報を共有し適切な方策を検討する。	保健	㉗ 3. 7	3.7	⑭ 3.1	3.1						
		⑤	挨拶・時間の厳守・身だしなみ・校内美化・マナーの指導などを通して礼節ある立ち居振る舞いのできる生徒の育成に努めていますか。	チャイムと同時に授業を開始することを生徒にも習慣づけ、清掃活動時は全教員が各所の指導に当たる。また、交通安全指導の徹底を図る。	学年	⑬ ⑯ ⑰ ㉔ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ 3.1 3.1 3.2 3.2 3.1 3.2 3.2	3.2 <u>3.4</u>	⑦ ⑩ ⑮ 3.2 3.2 3.4	3.3 <u>3.2</u>	⑥ 3.1	3.1 <u>3.1</u>				
2	主体的な学びを通して、「生きる力」となる学力を身に付けさせる。	⑥	授業評価を通して、生徒の学習意欲や希望・問題点を把握し、授業の改善が行われていますか。	授業評価を年2回実施し教員自身が効果的な授業の在り方を検証する	教務	⑧ 2.8	2.8					3.1	B	B	・生徒による授業評価は、各々の教員での確認と分析にとどまり学校全体で課題の改善に向けた取組には発展していない。 ・公開授業も同様で、互いの授業を見学しただけで終わることが多い。時間を設定し教科内で共有・協議できるようにしたい。 ・生徒自身の読書に対する自己評価は低く、貸出冊数も減っている。授業での活用機会を増やすなど、読書に向かわせる工夫を継続したい。 ・1人1台所有するクロームブックの効果的活用は課題である。 ・生徒の家庭学習時間は少ない。スケジュール手帳「大夢」は70%の生徒が有効と考えているが、メモ帳としての活用が主である。今後は計画的・主体的な学習へと繋げる指導が必要。
		⑦	学ぶ目的や意義を理解させて、計画的・主体的に学習できる力を付けさせ、学習時間の確保に努めていますか。	「大夢」を日常的に活用させる。自身の学習記録と成績の推移を検証させ自己管理・学習到達度の確認を行わせる。	学年	⑪ ⑳ ㉑ 3.1 3.1 3.2	3.1	② 3.5	3.5	① 3.1	3.1				
		⑧	「大夢」の活用で生徒の学習習慣や基本的生活習慣の確立が図られるなどの効果がありましたか。		教務 学年	⑩ ㉑ 2.9 3.2	3.1	① 3.0	3.0	⑦ 2.8	2.8				
		⑨	公開授業週間の実施や各教科の授業研究は、教員相互の授業力の向上につながっていますか。	年2回、公開授業週間を設けて互いの授業を見学し授業力の向上を図る。また、各教科別の研究授業も積極的に開催する。	教務	⑨ ㉗ 2.9 3.4	3.2								
		⑩	生徒の読書意欲を高揚させる取り組みを行うことができていますか。	読書の意義と楽しさ、充実し幅広い世界観の構築の大切さを様々な機会を通して啓発する。	図書研究	㉖ 3.1	3.1 <u>3.1</u>	⑪ 2.7	2.7 <u>3.1</u>		<u>3.0</u>				
3	系統的・組織的なキャリア教育により進路実現に向かう意欲と態度を育成する。	⑪	地元企業ガイダンス・職業人講演会などは生徒に自分の将来を考えさせる上で効果的に行われていますか。	それぞれの研修の機会を利用して、自己の将来のあるべき姿を考えさせる。	進路指導	㉑ ㉑ ㉑ 3.3 3.2 3.2	3.2	⑤ 3.3	3.3			3.2	A	A	・ITの活用が進み、地方にいながら仕事をするのが加速すると思われる。県内企業の魅力や情報に触れる機会も更に増やして欲しいと思う。 ・地元企業ガイダンスを含め、大学や行政、一般人などの講話を積極的に活用していく姿勢を評価したい。 ・「地域のロールモデルとなるような大人」の背中を見せるような企画で生徒を刺激してはどうか、候補者の中から生徒に選んでもらうのも一手だと思う。
		⑫	各学年の学力分析や進路検討会を通して教員間の共通理解が図られていますか。	進路検討会の開催時期・時間を工夫して教員が多数参加できるよう配慮する。模試ごとに分析を各教科で実施し、より良い授業の実現につなげる。	進路指導	⑯ ⑰ ㉑ 3.2 3.1 3.1	3.1	④ 3.3	3.3						
		⑬	面談、進路説明会、進路講演会などを通して生徒・保護者に的確な進路情報が提供されていますか。	生徒向け、保護者向け、教職員向けの講演会の機会を設けて、毎年変わる入試システムや上級学校の仕組みについての的確な情報を伝える。	進路指導	⑳ ㉒ 3.2 3.3	3.3 <u>3.2</u>	③ 3.3	3.3 <u>3.3</u>	② ③ 3.0 3.0	3.0 <u>3.0</u>				
4	地域と連携・協働し、地域や社会に貢献する態度を育成する。	⑭	地域協働学習によって、生徒の主体的な学びと社会貢献意識が高められていますか。	バスツアーや班別探究活動を通じて、地域についての知見を深めさせ、地域の課題と解決策を考えさせ、地域にイノベーションをおこす意欲を高めさせる。	図書研究	㉑ ㉑ ㉑ 3.3 3.3 3.3	3.3	⑥ 3.4	3.4	④ 3.2	3.2	3.2	A	A	・HPを頻繁に更新し、インスタグラムも運用を始めた。その効果について検証したい。生徒の感覚もできれば活かしたい。 ・地域協働学習を通じて地域の課題に対する意識が教員も生徒も高くなっている。今後でも全校で取り組みたい。 ・今年はボランティア活動を外部から依頼されることは少なかった。一方、地域で開催される様々な行事等に沢山の生徒が参加した。 ・オープンスクールは、生徒会が中心に関わることで中学生に好評を得た。内容についても相談したい。2回目も多くの参加者があった。来年度以降も継続したい。
		⑮	地域活動や・ボランティア活動への自発的参加の促しは活発に行われていますか。	地元や施設で開催される様々な行事に部活動単位や探究学習班、有志を募って参加させる。教育の日になんだ一斉奉仕活動も実施する。	生徒 図書	⑳ 3.1	3.1								
		⑯	保護者や地域の学校理解を深めるために、PTA通信や学校通信等を発行し積極的な広報活動が行われましたか。	総務部・進路指導部・保健部・図書研修部・学年部などが計画性をもって様々な観点からの広報活動を行う。	総務	② ③ ④ ⑤ ⑫ 3.2 3.5 3.4 3.5 3.5	3.4	⑬ 3.3	3.3	⑧ ⑨ ⑩ 3.0 2.9 3.1	3				
		⑰	ホームページの有効活用を進め本校の情報発信に寄与できていますか。	外部に対して様々な機会を利用して本校の特色をアピールしていく。素早い内容更新に努める。また、SNSの活用も検討していく。	図書研究	㉖ 3.2	3.2 <u>3.3</u>		<u>3.4</u>	⑤ 2.7	2.7 <u>3.0</u>				